

# 岐大通2014

2014 J.League Division2

F C 岐阜大好き通信 (岐大通)

7/30号

## 第24節 ファジアーノ岡山 戦

編集発行：『岐大通』製作委員会

今号の製作担当：

ささたく&吉田鑄造

7/30 19:00 @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest : ファジアーノ岡山 2013 J2 13勝17分12敗 勝ち点56:第12位

中国地方の社会人サッカーを牽引していた川崎製鉄水島サッカー部(1995年より移転して「ヴィッセル神戸」となる)のOBチームとして1975年から存在していたリバーフリーキッカーズを母体にして2003年に結成。2006年には中国リーグを制し地域リーグ決勝大会に駒を進めるも、決勝ラウンドでTDK、FC岐阜の後塵を押し3位となりJFLに昇格出来ず。翌年、中国リーグ在籍ながらJリーグ準加盟が認められる(地域リーグ所属クラブの準加盟認定は初)。その年の地域決勝で優勝してJFLへ。JFL 1年目で4位となりJリーグ参入。最高位は2012年のJ2・8位。(吉田鑄造)

7/20 ホーム横浜FC戦では、屈辱的な逆転負けを喫したFC岐阜。ホーム3戦連続で1万人超の観客というのは、昨年までの状況からは考えられないことだ。それは、(おそらくサッカーにそれほど興味のない人でも知っている)ラモス監督の就任や、#22 GK川口選手を始めとするスター選手が今年は加入しているなど、様々な要因が合わさったからだと思うのだが、それでも、まずは今年のクラブスタッフの努力を率直に讃えたい。ただ、その集客努力に試合結果が付いてきていない。この3戦の成績は1分2敗。対戦相手が磐田・長崎・横浜なので全部勝てる相手ではないかもしれないが、それでも、1勝はしないと駄目だ。ラモス監督が常に言う「もったいない」結果だ。そんな負け方をした次の試合ということで心配された7/26 アウェイ讃岐戦だったが、2-1で勝利することができた。讃岐のPKを“炎の守護神”川口が止めなければどうなっていたか判らないし、それ以外にも危ういシーンも何度かあったが、この勝ち点3は非常に大きい。これで順位は16位から15位に上昇。6位・札幌を勝ち点6差の射程内に捉えることができた。さて、今節の対戦相手はファジアーノ岡山。シーズン当初は歯車が噛み合わずに敗戦して下位に沈んでいたが、徐々に調子を上げ、なんと第9節から(引き分けも多かったのだが)15試合連続で負け無し。いつの間にか現在は4位に上昇し、3位の磐田とも勝ち点4差につけている。影山監督5年目体制は伊達ではない成熟したチームだ。岐阜との通算対戦成績は6勝3分3敗。ホームでは2勝1分2敗だが、なぜかアウェイでの勝率が良く4勝2分1敗。しかし、前回のアウェイ対戦では5/18 第14節に2-1と敗戦、#24 難波の意地の一発を返したが及ばず、(リーグ戦では)アウェイ初の敗戦を喫している。また、岡山とは2006年の地域L時代に決勝ラウンドで対戦し、2-0で試合を制した岐阜がJFLに昇格したという、古くからの因縁を持つ相手。ここはしっかりとリベンジしておきたい。岡山の要注意選手は、5得点を挙げている#32片山瑛一、1トップの(昨年は鳥取に在籍し個人的にリベンジに燃えているであろう)#13久保裕一などもいるが、その筆頭は磐田からレンタルで09~11年の3年間岐阜に在籍し、計19ゴールを挙げた#14押谷祐樹だろう。今シーズンは後半からジョーカー的に投入される起用が多いが、それでも4得点を挙げている(なお、09年にルーキーで入団して以来、昨年までの5年間岐阜に在籍していた#11染矢一樹は負傷により欠場の見込みが強い)。岡山は27得点21失点と、堅固な守備と着実な得点で勝負をモノにしているチームで、一方の岐阜は31得点34失点。(上位の岡山が相手なので当然だが)岐阜の守備陣が集中力を切らさずに守備をしないと失点してしまうだろうし、しっかりと攻撃を繋がないと得点できない。岐阜は守備の柱である#35木谷公亮と#15へニキが累積警告で出場停止なのが不安材料だが、若き守備陣の奮闘に期待したい。若干暑さが和らいできたはいえ、蒸し暑い岐阜での夏の試合、しかも中3日の過密日程。選手たちの疲労回復は充分でなく、本当に厳しい試合になるだろう。しかし、それは岡山も同じはずだ。現在のリーグは6位から19位までが勝ち点差8内にいる大混戦、ある意味で「我慢比べ」の試合そして季節だ。この季節にしっかりと勝ち点を積み上げることは、必ずシーズン後の好成績につながる。そう信じて、僕らもしっかりと声援を送ろう。(ささたく)

### 2014J2

#### ■順位表■第23節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	湘南	66p	+43	53	10	H●
2	松本	47p	+17	36	19	A●
3	磐田	43p	+13	38	25	H●
4	岡山	39p	+6	27	21	A●
5	北九州	37p	0	25	25	H△
6	札幌	34p	+4	28	24	A●
7	京都	34p	+3	34	31	H○
8	千葉	34p	+2	29	27	H△
9	福岡	32p	+1	33	32	H●
10	栃木	32p	-1	27	28	H●
11	大分	30p	-7	23	30	A●
12	山形	31p	+7	28	21	A●
13	水戸	30p	+3	26	23	A●
14	長崎	28p	+1	26	25	H△
15	岐阜	28p	-3	31	34	---
16	愛媛	27p	+3	26	23	A△
17	熊本	27p	-10	24	34	A○
18	横浜FC	26p	-2	22	24	A○ H●
19	群馬	26p	-8	22	30	H○
20	東京V	20p	-13	16	29	A○
21	讃岐	12p	-28	16	44	H○ A○
22	富山	9p	-31	12	43	H○

### 次回HomeGame

第26節 愛媛FC戦

8/10(日) 19:00

@岐阜メモリアルセンター  
長良川競技場



本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

### 岡田歯科医院

岐阜市加納新本町1-23  
tel:058-273-8998

### ALADDIN

何も無い店だけど...

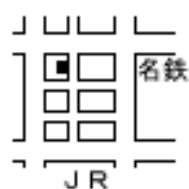
心の花が咲く...

何も無い店だけど...

心癒される...

忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)



「いらっやいませ」より「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は

JR岐阜・名鉄岐阜駅から  
徒歩3分。

休:月曜(定休日が変わりました!)

### 投稿募集!!

gidaidohri@  
hotmail.co.jp

## 【第22節】岐阜 1-2 横浜 FC

●なんだかなあ…この試合について語る人はみんな同じ様なことを言う（書く）と思うんだけどさ、「なんでいつも得点後に集中力切らしちゃって失点しちゃうかな？」って話ですよ…（深い溜息）。せっかく序盤から試合の主導権を握って攻めてたのに、最後のパスの精度やアイデアあるいは勇気が足りずに、前半は両チームともシュートがわずか1本ずつ。それでも後半はずいぶんと攻めて押し込んで、やっと得点を挙げたってのに…。相手のシュートはわずか3本。その3本のうち、わずか3分で撃たれた2本で逆転負けするんだから、これはもう選手たちは何と言われたって弁解のしようがない敗戦。集中なのかスタミナ不足なのか。特にベテランには、猛省に重ねて猛省をしてもらわないといけな。あれだったら、（相手の違いはあるけれど）若手主体で無我夢中で戦ってる熊本戦の方がよかったかもしれない。

唯一よかったのは、お客さんが12,465人も入ってくれて、しかも無料プレゼントのタオマフを選手入場には掲げたり、チャンス時には振り回したりしてくれて、一体となったスタジアムを楽しめたってことかな、と思う。不甲斐ない負け方をしてしまったけれど、あの雰囲気を楽しめた人たちがリピーターになってくれるといいなあ…と思っています。

（ささたく）

●「いったい、なんだったんだ？あの3分……。またしても、一万超え。12,465人という観客の前で先制点を挙げる。大歓声のスタジアム。その興奮も感激も未だ醒めやらぬ中、何が何だかわからぬうちに逆転され、キツネにつままれたような敗戦。向こうのリスタートがうまくいったとか、そういう点はあるにせよ、「いや、もう少しなんとかできたろ？」と歯がゆさが隠せなかった試合後の感想戦。観戦仲間には「高校生でもないよ、あんな失点。」と手厳しかったが、試合後のコメントで「小学生！」と監督が言っていたのを読んで「恐れ入りました」と苦笑するしかなかったワケです。選手の皆さん、もっと頑張りましょう。

とはいえね、先取点の場面までは実にいい流れ、展開だったと思います。しかも、得点を決めたのが高地。あの展開で、あの時間帯での得点。しかも、ホームとくれば、これはもう……ね。決めなきゃいけない。あれだけのお客さんに対して勝利をプレゼントできるかどうかというのは、実に影響が大きいと思いますけどどうでしょうか？

それでも、得点は入ったし、「楽しかった。」「また来たい。」という声もちらほら聞こえてきたのはありがたかった。幸い「二度と来ない。」という声は聞こえてこなかった（笑）。

それにしても、ねえ。京都戦といい、本当にもったいなかった。長崎戦はある意味妥当なドローだったと思うけど、こういう試合を確実にモノにできるようになって欲しいもんです。次節は、そこんとこをくれぐれもよろしくお願いします。（ぐん、）

●「嬉しい悲鳴」が2つの意味で本当の「悲鳴」になってしまおう、そんな試合開始前。1つは、開門前の長〜い行列。JFL時代から昨年までかけてカタチにしてきた、この『岐大通』配布のノウハウを大きく見直さないといけない。長良川を訪れる皆さんのアツい期待を感じる配布のひととき。もう一つは、本当の意味のアツさ。「岐阜の夏が来たぜ〜」と実感する。ラモス監督が就任当初から「夏場はベテランではまわせなくなる」と言っていた、その季節が来たのだ。

試合は、そんな“岐阜の夏”に脅えているかのようにプレスをかけてこない横浜FCを相手に、岐阜が主導権を握る展開。「この試合は獲らなきゃ」と思っていると後半の高地のゴール。ヘニキが相手GKとDFの間に落としたボールを感じてた高地がずっと抜け出して決める。最高の展開。だったのに、それが、ねえ……。

わずか1分後の同点ゴール、それはまだわかる。「甘さ」と言えばそれまでなんだけど、岐阜DFのファール（ハンド）で

FKを得た瞬間にオフサイドにならないポジションに1人浮いていたのを見つけた横浜の選手が見事だった。でも、そのわずか2〜3分で右サイドにポーンとフリーの選手を作ってしまう、そりゃあれだけ誰もいなけりゃ綺麗なクロスを入れられるわさ。スカパーで見ていた方は「よし、岐阜が先制したな、トイレ行くか……あ、あれ？」という風にも思われたらう。

この「いまの岐阜は90分のゲームをマネージ出来ない」というのは致命的な欠点になりつつある。相手も「FC岐阜相手なら後半勝負で」と来るだろう。いきなり「岐阜の夏を90分走りきれる」チームにするのは不可能だから、あとは90分のマネジメントの術を見つけるしかない。ラモス監督もアタマの痛いところだろう。（吉田鑄造）

## 【第23節】讃岐 1-2 岐阜

●昼間の暑熱に覆われたままのうだるようなスタジアムで、まさか冷や汗を流しながら終了の笛を聞くことになるなんて、いったいどんな怪談ですか？（苦笑）。百物語をやるには早すぎる時間でしたが、危うく前節の横浜戦の悪夢再び……となってもおかしくない展開。そこを何とか粘り切れたのは、キャプテンの再三に渡るビッグ・セーブのおかげであることは衆目の一致するところでしょう。

本当にあのPKを決められていたらヤバかった。決してイージーなキックではなかった。あのあたりが百戦錬磨というか、踏んできた修羅場の数が違うというか、四大会連続でW杯に出場という実績は伊達じゃないですね。まさに守護神でした。そして、そのPKを蹴ったのは高木和正。かつて、岐阜のために全力を尽くしてくれた彼とヨシカツの対決という震えるような場面でしたが、もちろんそんなことを楽しむような余裕のあろうはずもなく、ただひたすら信じて祈って「ヨシカツ」コールを叫んでいました。そういった意味でも、実にシビれる試合でしたが、ひっくり返されなかったものの前節と同じような展開になるのはなぜなのでしょう？何人も選手が足がつかって倒れたりピッチの外へ出たりするくらいギリギリの状況で戦ってくれたのはわかります。それでも、2点差がありながら、あるいは一点差に詰め寄られてもまだリードしているという事実のある中で、どうしてあんなにジタバタしてしまうのか。監督が常々言っている「ピッチでの指揮官」が不在だからですか？でも、考えてみればこの言葉はラモス監督以前から聞かされている言葉です。今西さんも言っていました。要するに、「ピッチでの指揮官」なんて人材は一朝一夕には出てこないということでしょう。逆に、誰か特定の人材に頼ることなくベンチ入りのメンバーも含めて、全員が状況を考え臨機応変に意思の疎通を図って戦えるようにならないといけない。残念ながら、ウチはまだまだ未熟なんじゃないかな。ただ、その分発展途上なんだと信じています。これからも厳しい試合が続きます。あれだけバテていた試合の後に中三日での連戦。そして、再び長崎への遠征と、これでもかかってからの逆境に加え、守備の要のヘニキと木谷が出場停止となる岡山戦。だからこそ、他の選手が団結し、誰もが指揮官というか、任務を全うして戦ってくれることを期待しています。なんだかんだ書きましたが、とにかく勝ち点3をプレゼントしてくれた讃岐戦。おかげさまで、試合前後のうどんツアーや裏名物・B級グルメの骨付鶏がことさらに美味しく感じるようになってきました。選手の皆さんには感謝しつつ、もっともっとイイとこ見せてくださいとゼイタクを言いたいですね（笑）。あ、余計なことですけど、この試合で和正に決められちゃいました。なんというか、いくらなんでも「恩返し弾」とやらをいただき過ぎなような気がします。でも、勝ち点3を取ってくれるんならヨシとしますか。（ぐん、）

●久しぶりの讃岐。というのも、FC岐阜の応援を始める前から名物の『讃岐うどん』にハマって何度も何度も、「片道1万円近くの交通費を払ってでも1杯200円のうどんを食べに行く」をやっていたから。だから、今回のアウェー観戦も当然だけど朝から現地に乗り込んで美味なうどん屋さんを4軒ハシゴ。サポーター仲間も喜んでくれた。本当に、『うどん』と『讃岐うどん』は別の食べ物なんじゃないか?」と思ってしまうほどに違います。

うどんの後は丸亀駅前の美術館で現代美術を堪能し、バクチ好きの仲間と丸亀競艇に参戦して、ここでも勝利。もう、すべてがいい方向にまわっている讃岐遠征。このままの勢いで、行っちゃおうよ?

と始まった試合は、たしかにこのままの勢いで進んでいた。久しぶりにスタメンのタイラからの浮き球スルーに抜け出したナザリトの綺麗なループ。CKから泥臭く押し込んだ関田のゴールは時間帯もよかった。前半を終えて2-0。中盤のタイスケ、高地、宮沢の流動性でチャンスもいっぱい作った。相手の讃岐は木島が単騎で走ってそこにロングボールを入れるしか策がない。ハーフタイムにはサポ仲間と「ここまではまったく問題ない」と話していた。

でも、彼もぼくもわかっていて。「ここまでは」だということ。だから、3点目が入るまでは安心出来ないし危惧していた。そして、その危惧どおりに試合展開は変わっていく。前半途中から投入された古田と、これも後半から投入された和正。特に古田は厄介だった、というかなぜ札幌はレンタルとはいえこんな逸材を外に出せるんだろう?そして、FC岐阜の“魔の時間帯”が訪れる。岐阜の中盤の致命的状況は「だんだん動けなくなる」のではなく「ある時間になると全員が急に動けなくなる」こと。そして、ある意味“お約束”の失点。そこで下を向いてしまう選手達。まだリードしてるじゃん!とか思うのだけど、そしてそのすぐ後に与えてしまうPK。しかし、岐阜のゴールを守るのは何度も日本代表のピンチを防いできた川口能活。ほとんど対戦の経験はないはずなのに、試合後のコメントで「彼(和正)のキックのクセもあるので……」とは、しっかりとスカウティングをしたのだろう。

その後も、攻撃が機能しないので“勝ちたい”岐阜は中盤の4枚もかなり退き気味になって相手にいいように攻撃を作られてしまうが、なんとか守りきっての勝ち点3。いやあ、厳しい試合だった。前節・横浜戦との違いは、「“魔の時間帯”に入る前のリードが1点でなく2点だった」ことかな。

とにもかくにも勝ち勝ち。試合後には讃岐・丸亀のもう一つの名物『骨付鶏』で乾杯。そのお店で声をかけてくれた初対面の讃岐サポさんと2次会にまでなだれ込んでしまう。ああ、なんていい街なんだ丸亀。勝っておいてナンだけど、来年も訪れたいので残留してください。(吉田铸造)

## 【ユース】「Jユースカップ」、始まります!

●我らがFC岐阜ユースU-18(以下FC岐阜ユース)は7/19にG1リーグの第9節中京高校との対戦がありました。結果は2対0で見事勝利!この結果、リーグ前半戦が終わった時点でFC岐阜ユースは8勝0分1敗の勝点24で見事首位ターンとなりました(ばんざ〜!)因みにG1リーグのその他の順位は、2位は勝点20の岐阜工、3位は勝点17の関商工、4位は勝点14の各務原、以下5位帝京大可児B、6位長良、7位中京、8位大垣工、9位土岐商、10位東濃実業となっています。後半戦は8月30日の第10節の試合から再開されます。FC岐阜ユースは帝京大可児Bと対戦の予定です。そして毎年秋に開催されるJユースカップの試合要綱が先日発表されました。今年は7月に7チームによる予備予選が実施され、そこを勝ち上がった5クラブとJ1・J2の39クラブ(讃岐を除く)が4クラブ毎に分かれて10月に予選リーグ戦を行います。予選リーグの組分けも一部発表されており、我らがFC岐阜ユースはグループGに組分けされていて、同じグループには川崎F、清水、鳥取が入っています。FC岐阜ユースは2009年からこのJユースカップに参戦していますが、まだ勝点を得ることが出来ていません(涙)。今年こそ是非勝点を挙げて貰いたい物です。予選リーグの試合日程等が発表されましたら又ここで報告させていただきますので、是非歴史が作られる瞬間を目撃しに行きませんか?頑張れよ、応援しているからな!FORZA!FC岐阜ユース!!

※試合会場・時間の変更の可能性があります。必ず岐阜県サッカー協会やJリーグの公式サイトでご確認下さい。(シュナ)

## 地主園、契約満了。

●梅雨も明け、いよいよ本格的な夏到来。今季の集大成に向かって後半戦が始まり、なんとかギリギリで勝ち点3をもぎ取り、「さあ、これからだ!」という讃岐戦後の月曜日。またしても残念な情報がリリースされた。地主園秀美選手の契約満了。これは、はっきり言って予想だにしていなかった。たしかに所属選手の中では唯一公式戦出場どころかベンチにも入っていなかった。それでも、リハビリは順調に進んでいて、時が来れば平のように復帰してくれるもんだとばかり思っていた。

東海学園大学在学中の特別指定を経て、この岐阜でプロ選手としての第一歩を踏み出してくれた選手だけに、成長していく姿を楽しみにしていた。それだけに残念でならない。小気味のいいドリブルとシュート。岐阜で挙げた3得点の内、なぜだかアウェイでの2ゴールが強く印象に残っている。特別指定で出場したアウェイ大分戦でのJ初ゴール。アディショナルタイムで追いつかれ、決勝ゴールとはならなかった熊谷陸上での草津戦(現・群馬)。もっと、もっとプレーする姿が見たかった。シーズンの最中にこういう結果になるとは、返す返すも残念だ。

今後もプレーを続けるのかどうかはわからないが、どこに行っても応援している。これからもひたむきにがんばってほしい。岐阜に来てくれてありがとう!(ぐん)

